

第5回旧吉田茂邸再建検討委員会結果概要

〔日 時〕平成21年9月16日（水）午後7:00～午後9:00

〔場 所〕大磯町役場4階委員会室

〔出席者〕

（委員 長）中島遺産保存会副会長

（副委員 長）岩崎氏（学識経験者）

（委 員）三上区長連絡協議会副会長、新宅商工会副会長、
鈴木観光協会副会長、大澤観光協会副会長、吉川中丸町内会長、
宮代ガイドボランティア協会会長、清田教育委員会委員長、
関野氏（学識経験者）、永嶋氏（学識経験者）

（事 務 局）8名

1 開会

（1）あいさつ

ア 委員長あいさつ

- ・ 本日は、ご多忙の折わざわざお集まりいただきありがとうございます。今日新しい政府が発足し、新総理は脱官僚主導を目指していくとのことですが、私としては事務局に支えていただきながら当委員会を進めていきたいと思っております。

町議会の日程の都合もあり、本日の開催となりましたが、この間の旧吉田茂邸再建基金の状況をご報告するとともに、我々が今後どのように取り組んでいったらよいのか考えをまとめてまいりたく、よろしく願いします。

2 議題

（1）取組状況について

ア 前回委員会開催後の取組状況について（報告）

（委員長）

- ・ 6月に開催した前回委員会で「旧吉田茂邸の再建についての提言書」をとりまとめました。提言書の写しについてはみなさまにお届けしているところです。その後、町において県への要望書を作成し、私も三好町長と当時の百瀬議長にご一緒させていただき、小野副知事に提出してまいりました。また、県と町と財団法人吉田茂国際基金の合同記者会見も行っております。その辺のことも含めまして、事務局より前回委員会以後の取組状況について報告させていただきますと思います。

(事務局)

- お手元に、「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」の写しをお配りさせていただいております。議会からの決議文を資料2に、当委員会から提出された提言書を資料3に、各検討会の実施状況を資料4に添付しておりますが、要望書は、当委員会から提出された提言書の内容と、町議会から出された決議文の内容を尊重して記載内容について検討したものでありますので、県に対して大磯町の総意を示すものになっております。
7月9日に三好町長、当時の百瀬議長、中島委員長が小野副知事に面会し、要望書を提出してまいりました。
日程の都合上、県知事に要望書を直接お渡しすることはできませんでしたが、小野副知事は、県としても財政状況が非常に厳しい中なので、再建費用の確保が大きな課題である。まずは募金活動を推し進めていただき、県も協力していくと発言されておりました。
- 7月28日には、新聞記事にも掲載されておりますように、松沢知事、三好町長、和田吉田茂国際基金専務理事の三者合同記者会見を、県庁において実施し、募金への協力を呼びかけてまいりました。
- また、同じ日、大磯城山公園の区域に旧吉田茂邸の跡地を含める内容の都市計画の変更の告示がなされました。
- 現在、町としては町内の公共施設以外にも大磯ロングビーチ、商工会事務所、観光協会案内所募金箱を設置しておりますが、姉妹都市への協力依頼ということで、7月14日(火)に長野県小諸市役所、8月12日(水)に岐阜県中津川市役所へ赴き、両市役所と中津川市の藤村記念館の計3箇所にも募金箱を設置させていただきました。
- また、ホームページや回覧板を通して、なるべく理解しやすいように、「ふるさと納税制度」について説明させていただいているほか、ゆうちょ銀行用の払込票が赤く印刷されているパンフレットをお手元にお配りしていますが、町指定の金融機関に加え、ゆうちょ銀行(郵便局)でも寄附金が振り込めるように改善しました。
- さらに、写真家吉岡専造氏のご遺族から吉田茂の写真数点、財団法人吉田茂国際基金や社団法人日米協会から似顔絵や書の色紙を数点借用したほか、町広報を通して、町民から、吉田茂にまつわる地元のエピソードや写真を募っております。
- 街頭募金については、なぎさの祭典や平塚市で開催された湘南邸園文化ネットワーク協議会シンポジウムで実施いたしました。
- 募金協力のお願いとして、県を通して近隣都県や県の出先機関に案内ちらしの配布をお願いし、また、財団法人吉田茂国際基金を通して外交資料館に来館者用の案内ちらしを置かせていただいているほか、國學院大學の柴田先

生と財団法人吉田茂国際基金の和田専務理事の紹介で、東京の永田町にある衆議院事務局憲政記念館にも案内らしを置かせていただいております。

さらに、近々には、町から全国の市町村に向けてもご案内することを予定しております。

なお、9月7日時点での募金の集まり具合は、本日配付しましたA4横の資料「大磯町旧吉田茂邸再建基金寄附金状況」に内訳を示しておりますが、18箇所に設置している募金箱の金額と156件の寄附金との合計で、24,677,700円となっております。

- ・ 今後の取組予定としましては、チャレンジフェスタ2009、大磯ふれあい農林水産まつり、2009湘南マラソン、大磯城山公園もみじのライトアップなど様々なイベントに参加するとともに、募金活動を全国に呼びかける意味も含めまして、県と共催で大々的にシンポジウムをやりましょうという話になっております。

イ 報告内容について質疑応答

(委員長)

- ・ 私の聞いているところでは、区長会長全員が申し合わせて寄附を行ったほか、商工会においては吉田茂邸再建基金の協力文句を印刷した名刺を使っているといった情報もある。
- ・ 県とのシンポジウムはどこでやるのか。

(事務局)

- ・ 県と町とでやっていくという話がでていて、まだ詳細は決まっていない。

(委員長)

- ・ 取組状況の報告についてご質問があればお願いします。

(委員)

- ・ 吉田茂国際基金と日米協会とはどういうところなのか。

(事務局)

- ・ 財団法人吉田茂国際基金は、吉田茂元首相の国際親善に関する功績を記念して設立され、教育・学術・文化及び内政・外交に関する調査研究に対して、奨励金の交付や助成・褒賞などを実施している団体。麻生太郎前首相も理事に名を連ねており、七賢堂祭の開催や寄附金で建立した皇居北の丸公園内の吉田茂銅像を維持管理している。また、社団法人日米協会は、その名のとおり、日米両国の友好関係の維持・親善を目的として1917年に創立しており、第5代会長に吉田茂、第6代会長に岸信介、第7代会長に福田赳夫と歴代首相級の方が会長に就任している。

(委員)

- ・ 吉田茂国際基金や日米協会への協力依頼はどのようにやったのか。

(事務局)

- ・ 町長とともに赤坂の事務所を訪問し、関係書類を持参して説明した。憲政記念館は修学旅行や政治に興味のある方などかなりの人が集まる場所です。吉田茂国際基金と日米協会には、個別の会員に対して直接納付書を送っていただいている。

(委員長)

- ・ 丁度総選挙の時期と重なっていたので、関心がそちらに向いてしまっていたのではないかと。そろそろ反応が出てくるのではないかと。

(委員)

- ・ これから、我々で何か行動をおこす必要があるか。
- ・ 区長会長が皆で集めて寄附したという話だが、我々の集まりではどうか。

(事務局)

- ・ 行政から寄附金を割り当てて強制的に徴収することは禁止されている（地方財政法第4条の5）ので、有志の方が自発的に行うのならば良いが、消極的な方も含めて強制的になってしまうといけない。金額の問題もあるしそれぞれでご協力いただければと思う。

(委員)

- ・ 10月25日（日）に、大磯ガイドボランティア協会の主催で、聖ステパノ学園海の見えるホールにおいて「吉田茂と樋口季一郎」と題した講演会を実施する。ガイドボランティア協会の創立10周年記念として、旧吉田茂邸の再建に取り組んでいるこの時期だから、是非吉田さんに関することを題材にしようということになった。あわせて募金活動にも協力したい。講師の早坂隆氏は昭和48年生まれでまだ若いですが、大磯に在住でこれから頭角を出してくるであろう作家である。吉田茂については戦前の話をしてもらうことを予定している。また、樋口季一郎は、ユダヤ人を救った人物として有名な杉原千畝外交官よりも2年以上前に、ソ連領オトポール駅から満州国へ2万人のユダヤ人を救済したハルピンの特務機関長で、晩年は町役場の正面に居を構えており、妙大寺に眠っている。広く小田原市、平塚市、二宮町からの参加者も招いて理解を深めていただこうと考え入場無料としている。

(委員長)

- ・ いろいろな方がいろいろなアイデアを出している。ただし、私が副知事にお会いした時の印象では、県として町に望むことは、基金条例を作って終わりではなく、どれだけ地元として、町当局、議会、町民が一生懸命募金活動をしてくれるかというあたりにあるように感じた。

(2) 町民への理解促進に向けた取組について

ア 町民への理解促進に向けた取組策

(委員長)

- ・ 町民のほとんどは旧吉田茂邸の再建計画に無関心の人も多く、あれまだ何かやっているのという声も聞く。募金箱を町内 15 箇所に設置し、手を変え品を変えやっても、そのこと自体を知らない人が沢山いる。そこで我々が何かできることはないかということでご提案いただきたい。シンポジウムを開催するにしても 1 回ではなく継続的にやっていく必要があると思う。

(委員)

- ・ 町民といっても、実際に旧吉田茂邸に行ったことも見たこともない人がほとんどなのではないか。焼失した跡地を見るわけにもいかないし、寄附しようとする気持ちが生まれてこないのだと思う。

募金のパンフレットの写真などを見ても綺麗な写真ばかりで、焼失時の写真がない。再建後の予想図なども出てこないとなかなかイメージが湧かない。焼失現場の見学会を開催するなどして目に訴えないと、遠い世界の話に感じてしまうのではないか。それでは建てようという気持ちになるような感動を与える必要があると思う。ところで、実際に旧吉田邸を見た人はどれくらい町内にいるのか。

(事務局)

- ・ 平塚で開催された湘南邸園文化ネットワーク協議会シンポジウムでは、委員の方の提案で焼失中の写真パネルも用意したが、ご覧になる方は、焼失前の綺麗な写真と見比べながらしげしげと見ていた。今後も同様に焼失中の写真も出していく方が良いと感じた。
- ・ また、旧吉田茂邸の開放については、西武と調整している。県が土地を購入して庭園工事に着手すると中に入れる状況ではなくなると思うので、12 月中までが目安。ただし、原因不明の火災であったことから七賢堂の看板や中身は外して黄色のバリケードを囲っており、兜門も黄色のバリケードで囲っている状態。本邸跡地も西武で囲ってしまうかも知れない。こうした状況でも構わないということであれば観光協会を中心に 11 月中に 8 日くらいできるかなということで折衝中である。細かい所は詰めきっていないが、講師を招いてのシンポジウムも合わせて実施できればと企画立案中だが、最終的には固まっていない。
- ・ 過去の見学会への出席者は平成 18 年 2 月から 5 月の 8 日間で町民が推計で 2,652 人（入場者数 4,708 人）、平成 19 年 10 月から 12 月の特別公開 43 日間で町民が推計で 249 人（入場者数 6,468 人）、平成 20 年度は手元に町内外の内訳資料がないが、18 日間で入場者数は 3,273 人だった。

(委員)

- ・ 募金の期間が平成 23 年 3 月末までであるから寄附していない人もいる。町内だけでは狭い。物産展などは東京で開催するが、東京などに行ってチラシを

配ることも必要ではないか。

(委員)

- ・ どう盛り上げていくかだと思う。週末に駅でビラを配るなどパフォーマンスも必要。目に見えるように動く必要があるのではないか。

(委員長)

- ・ 県土整備部長からもイベントがあったら東京でも横浜でもどこへでも出かけて行って募金活動したらどうかと言われた。寄附呼びかけの文書の写真も焼失前写真と見比べられるようなインパクトのあるものにしたら良いかと思う。当委員会として我々で何かやることはないか。

(委員)

- ・ 募金箱で大きな声を出して募っても、なぎさの祭典の募金では 6,800 円しか集まらなかった。各委員の所属している組織で仮の領収書を用意させて知り合いに話した時にサッと出してもらおうようにしないと、郵便局まで振込みに行かせてというのではなかなか協力してもらえない。

(委員)

- ・ 駅前に旗を立てるとかもっと泥臭く盛り上げていく必要があると思う。大磯には有名人も沢山いるのだからオークション大会を開いたり、お宝発見のテレビを呼び込むとか、駅前に立って 100 円でも 500 円でもどんどん集めたら良いと思う。

(委員)

- ・ お祭りの時のように、誰がいくら出したか分かるようにしたらどうか。募金の受付期間もまだあるし、うちは一体いくら位出せば良いのか見当がつかないので、他の人の出方を待っているという人もいる。金額が少なくて恥をかきたくないといった心境もあると思う。

(委員長)

- ・ たしかに様子見もあると思うが、県が再建策をどうするか決めていくに当たっては、初年度の募金の集まり具合が大きく影響するので、実際は悠長に構えてはいけぬ。出だしが大事であるということをお伝えする。

(事務局)

- ・ 寄附金を集めるにあたって、寄附者の氏名や寄附金額の公表の可否を確認しているが、ここである程度まとまってきたので広報おおいそ 10 月号への掲載とホームページでお知らせをする準備をしている。

(委員)

募金活動を先頭に立って積極的にやっていくという姿勢をアピールするためにも、特別職や議員の方が募金して町民に周知する必要があると思う。公職選挙法に抵触するというのなら、報酬や給与を削り、削った分を基金に上乘せして積み立てるといった方法も考えられるのではないか。

(委員長)

個人的には町職員はすでに給与カットを行っておりしんどいと思う。ただ、何らかの形で町長が率先している姿をアピールして欲しい。呼び水として寄附者を公表していくことは、様子見をしている人に対して強いメッセージにもなると思う。我々としてはこうしたアピールの結果を受けてからシンポジウムの開催などに動き出していきたい。

(事務局)

町では、「当事業所(店・ホテル)は、旧吉田茂邸の再建を応援しています。」という長さ40センチほどのラミネート板を作成しており、寄附をいただいた事業所等に対して店頭に貼っていただくような取組みも進めている。

(委員長)

本庁舎入口の募金箱の周辺にいろいろ展示しているが、来庁する方は自分の用事のこと頭がいっぱいでなかなか目に入らないのだと思う。本庁舎と国府支所の2箇所に「旧吉田茂邸再建基金募集中」の懸垂幕をかけてはどうか。1つ5万円程度で作成できると思う。

(委員)

ロータリークラブで寄附すると個人としてのふるさと納税制度が利用できなくなるので、個人名で寄附するか両方で寄附するか迷っている。また、ロータリークラブで寄附すると公表の際に個人名は出ないのか。

(事務局)

ロータリークラブとしてご寄附していただいた場合の公表は、広報紙の紙面の都合もあり、団体名が掲載される

(委員)

伊勢神宮への寄附では割り当てがきた。区長や副区長で各戸をまわったが、ところで区長はいくら出したのと聞かれることがしばしばあった。これこれしかじかと説明するとじゃ分かったという話になる。

(委員)

行政と町内会の役員が各戸訪問するとか、学校の授業に吉田茂のカリキュラムを入れて勉強する機会を設けるとか、社会見学するとか考えたらどうか。

(委員長)

町では広報紙にいろいろ説明文などを掲載しているが、なかなか伝わってこないことが多い。言いたしっぺの町長が募金箱に募金している写真を大々的に掲載するなど、説明を要しないインパクトを与えるようなもので、町民の目を覚まさせてほしい。

人工的に風を送り火をおこす。ラミネート板もどんどん刷り、懸垂幕も必要。やってやるぞという強いインパクトが必要。必死さを表現していく必要がある。

本日のまとめとして、

- ① 大型の懸垂幕を本庁舎と国府支所に掲げる。
- ② 寄附者の氏名及び金額を広報に載せる。
- ③ 町長と議員が寄附している姿が分かる写真を広報に掲載する。
- ④ 増刷時で結構なので、焼失の写真と焼失前の綺麗な写真とを対比できるようなパンフレットを作成する。

以上を当委員会の意見とするということでご異議ないか。(一同了承)

(事務局)

選挙で選ばれている町長や議員が寄附をすることは公職選挙法第 199 条の 2 に抵触すると整理している。何か方策があるかどうかは改めて確認するが、駅前立つなど他の PR 方法もある。

(事務局)

再建の姿については、現在県において多角的に検討している。まずは募金でお金をどれくらい用意できるかであるが、今後、町内外、全国に向けて発信するためにも県とシンポジウムの準備を進めていく。なお、商工会の事務所や観光協会の案内所にも募金箱を設置していただくなどご協力をいただいているところであるが、今後ともみなさまのお力添えをいただく必要も出てくると思いますので、よろしく申し上げます。次回は県と町共催のシンポジウムの日程が決まるなど動きがあればご報告も兼ねて開催させていただきたい。

(委員長)

以上をもちまして、第 5 回旧吉田茂邸再建検討委員会を閉会いたします。